■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア（ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル）、クロス円通貨ペア（ユーロ円、豪ドル円、ポンド円）に関して、週足、日足、4 時間足、1 時間足分析を掲載します。
分析は、全て、先週末 7 月 26 日の日足終値（NY 時間午後 5 時）時点での判断です。

＜＜＜主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析＞＞＞

「週足」はポジショントレードの大局観把握、
「日足」はスイングトレードの大局観把握、
「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、
「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。
尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて
判断することをお勧めします。
例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、
スイングトレードであれば、主に 4 時間足での売買判断、
ゆったりデイトレードであれば、主に 1 時間足での売買判断、
デイトレードであれば、主に 5 分足での売買判断となります。

■ドル円

＜＜週足＞＞
本格的な調整反落局面。
終値がセンターラインを下回っており、－2σラインを目指す本格的な調整反落局面
入りしていると判断。
トレード戦略としては、目先、売り戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが
陰転しないかぎり、－1σラインから－2σラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンス
と読む。尚、今後、遅行スパンが陰転し、終値が－2σラインを下回り、バンド幅が拡大
傾向に転じる場合は、本格下落トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

＜＜日足＞＞
本格下落トレンド局面。

尚、（1）遅行スパンが陰転している、（2）終値が－2σを下回ったこと、（3）バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。
今後は、終値と－1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、底堅い展開になりやすいと判断する。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）現在値が 1 本前の高値をブレイクすること、（2）終値が－2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

＜＜4 時間足＞＞
調整反騰局面。
終値が－1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。
トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。
そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを上回ると、＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。
一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。
尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから＋2σラインにかけての価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。
また、終値が－2σラインを下回るまでは、－1σラインから－2σラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスと判断する。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

■ユーロドル

＜＜週足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

＜＜日足＞＞
調整反落局面。
終値が＋1σラインを下回って以降、調整反落局面入りしていると判断。
トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。
そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを
下回ると、－2σラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。
一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面
に入る可能性が高まる。
尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから－2σラインにかけての
価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。
また、終値が＋2σラインを上回るまでは、＋1σラインから＋2σラインのゾーンは

一旦は戻り売りチャンスと判断する。

＜＜4 時間足＞＞
調整反騰局面の最終ターゲットである＋2σラインにほぼ到達後、レンジ局面と判断。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

■豪ドル/ドル

＜＜週足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

＜＜日足＞＞
本格下落トレンド局面。
尚、（1）遅行スパンが陰転している、（2）終値が－2σを下回ったこと、（3）バンド幅が
拡大傾向となっていることなどが判断根拠。
今後は、終値と－1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

尚、終値が－2σラインを下回る「走る相場」となった後だけに、「リバーサルパターン」
の発生には注意しておきたい。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）現在値が 1 本前の高値をブレイク
すること、（2）終値が－2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

＜＜4 時間足＞＞
緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。
終値が－1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途である
センターライン近辺まで上昇した後に反落している。

今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、
終値が－2σラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。

トレード戦略としては、センターラインにかけては、一旦は戻り売りを優先させたい一方で、
終値がセンターラインをブレイクすると、本格的な調整反騰局面に入ることから、一転して
買い戦略が有効となる。
また、終値が－2σラインをブレイクするまでは、押し目買い戦略が有効である一方で、
終値が同ラインを下回ると、あらためて本格下落トレンド局面入りするため、売り戦略が
有効となる。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

■ポンドドル

＜＜週足＞＞
本格上昇トレンド局面。
尚、（1）遅行スパンが陽転している、（2）終値が＋2σを上回ったこと、（3）バンド幅が
拡大傾向となっていることなどが判断根拠。
今後は、終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、上値重くなっている点に注目したい。
「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、（1）現在値が 1 本前の安値をブレイクすること、（2）終値が＋2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

＜＜日足＞＞
調整反落局面。
終値が＋1σラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。
トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。
そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを下回ると、－2σラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。
一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。
尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから－2σラインにかけての価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。
また、終値が＋2σラインを上回るまでは、＋1σラインから＋2σラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

＜＜4 時間足＞＞
調整反騰局面。
終値が－1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。
トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。
そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを上回ると、＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。
一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。
尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから＋2σラインにかけての価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。
また、終値が－2σラインを下回るまでは、－1σラインから－2σラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスと判断する。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

■ユーロ円

＜＜週足＞＞
本格的な調整反落局面。
終値がセンターラインを下回っており、－2σラインを目指す本格的な調整反落局面
入りしていると判断。
トレード戦略としては、目先、売り戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが
陰転しないかぎり、－1σラインから－2σラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンス
と読む。尚、今後、遅行スパンが陰転し、終値が－2σラインを下回り、バンド幅が拡大
傾向に転じる場合は、本格下落トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

＜＜日足＞＞
本格下落トレンド局面。
尚、（1）遅行スパンが陰転している、（2）終値が－2σを下回ったこと、（3）バンド幅が
拡大傾向となっていることなどが判断根拠。
今後は、終値と－1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、底堅い展開となっている点には注意したい。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）現在値が 1 本前の高値をブレイク
すること、（2）終値が－2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

＜＜4 時間足＞＞
調整反騰局面。
終値が－1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。
トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。
そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを
上回ると、＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。
一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面
に入る可能性が高まる。
尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから＋2σラインにかけての
価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。
また、終値が－2σラインを下回るまでは、－1σラインから－2σラインのゾーンは
一旦は押し目買いチャンスと判断する。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

■豪ドル円

＜＜週足＞＞
本格的な調整反落局面。
終値がセンターラインを下回っており、－2σラインを目指す本格的な調整反落局面入りしていると判断。
トレード戦略としては、目先、売り戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが陰転しないかぎり、－1σラインから－2σラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンスと読む。尚、今後、遅行スパンが陰転し、終値が－2σラインを下回り、バンド幅が拡大傾向に転じる場合は、本格下落トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

＜＜日足＞＞
本格下落トレンド局面。
尚、（1）遅行スパンが陰転している、（2）終値が－2σを下回ったこと、（3）バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。
今後は、終値と－1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

尚、終値が－2σラインを下回る「走る相場」となった後だけに、「リバーサルパターン」の発生には注意しておきたい。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）現在値が 1 本前の高値をブレイクすること、（2）終値が－2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

＜＜4 時間足＞＞
調整反騰局面。
終値が－1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。
トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを
上回ると、＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。
一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面
に入る可能性が高まる。
尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから＋2σラインにかけての
価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。
また、終値が－2σラインを下回るまでは、－1σラインから－2σラインのゾーンは
一旦は押し目買いチャンスと判断する。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

■ポンド円

＜＜週足＞＞
調整反落局面。
終値が＋1σラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。
トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。
そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを
下回ると、－2σラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。
一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面
に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから－2σラインにかけての
価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。
また、終値が＋2σラインを上回るまでは、＋1σラインから＋2σラインのゾーンは
一旦は戻り売りチャンスと判断する。

＜＜日足＞＞
本格下落トレンド局面。
尚、（1）遅行スパンが陰転している、（2）終値が－2σを下回ったこと、（3）バンド幅が
拡大傾向となっていることなどが判断根拠。
今後は、終値と－1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

尚、終値が－2σラインを下回る「走る相場」となった後だけに、「リバーサルパターン」
の発生には注意しておきたい。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）現在値が 1 本前の高値をブレイク
すること、（2）終値が－2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

＜＜4 時間足＞＞
調整反騰局面。
終値が－1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。
トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。
そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを
上回ると、＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。
一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面
に入る可能性が高まる。
尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから＋2σラインにかけての
価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。
また、終値が－2σラインを下回るまでは、－1σラインから－2σラインのゾーンは
一旦は押し目買いチャンスと判断する。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。特に、（2）の条件がクリアーされることが望ましい。

以上です。